

内蔵Blu-ray Writer ユニット(PY-BW101)**内蔵Blu-ray Writer ユニット(PYBBW101)****(1) 概要**

専用ベイに搭載可能な Blu-ray Disc の読み取り／書込みに対応した光ディスクドライブ装置を提供します。

(2) 特長

- ・ BD-R(SL/DL)の書込み速度は最大 6 倍速、BD-RE(SL/DL)の書込み速度は最大 2 倍速です。
- ・ BD-ROM の読み取り速度は最大 8 倍速です。
- ・ DVD-RAM の読み取り/書込み速度は最大 5 倍速です。
- ・ DVD-ROM の読み取り速度は最大 16 倍速です。
- ・ CD-ROM の読み取り速度は最大 40 倍速です。

(3) 仕様

項目	仕様	
製品名称	内蔵 Blu-ray Writer ユニット	内蔵 Blu-ray Writer ユニット
型名	PY-BW101	PYBBW101
インターフェース	SATA	
対応規格 (*1)	Read : CD-ROM, CD-R, CD-RW, DVD-ROM, DVD-R, DVD-R DL, DVD-RW DVD-RAM, DVD+R, DVD+R DL, DVD+RW, BD-ROM, BD-R, BD-RE Write : DVD-RAM, BD-R, BD-RE	
データ転送速度 (*2)	Read : CD-ROM/-R/-RW 最大40倍速、DVD-ROM/-R/+R 最大16倍速 DVD-RW/+RW 最大10倍速、DVD-RAM 最大5倍速 BD-ROM/BD-R 最大8倍速、BD-RE 最大6倍速 Write : DVD-RAM 最大 5 倍速、BD-R 最大 6 倍速、BD-RE 最大 2 倍速	
ディスクローディング方式	トレイローディング	
外形寸法[mm]	幅 148 × 高さ 42 × 奥行き 177	
質量	800 g	

*1 DVD-RAM, BD-R, BD-REは媒体の種類(供給メーカー)によっては書込みできない場合がありますので推奨媒体をご使用ください。

CD-R, CD-RW, DVD-RAM, DVD-R, DVD-R DL, DVD-RW, DVD+R, DVD+R DL, DVD+RW, BD-R, BD-REは媒体の種類(供給メーカー)及び書込み条件によっては読めない場合があります。

実際に使用される媒体、書込み装置、ソフトウェア及び本装置で事前に十分確認の上、ご使用ください。

*2 各数値は仕様上の最大値であり、使用するメディアや動作環境により異なる場合があります。

(4) 推奨媒体

DVD-RAM, BD-R, BD-RE の推奨媒体は、以下の通りです。

媒体	メーカー	型格
DVD-RAM	パナソニック	LM-HC47M (4.7GB、カートリッジ無、2~5 倍速) LM-HB47MA (4.7GB、ディスク取り出し可能、2~5 倍速) *3 LM-HB94M (9.4GB、ディスク取り出し可能、2~5 倍速) *3
	日立マクセル	DRM47PWC.S1P5SA (4.7GB、カートリッジ無、2~5 倍速)
BD-R	パナソニック	LM-BR25LDH5 (25GB、1~4 倍速)
		LM-BR25LDW5 (25GB、1~4 倍速)
		LM-BR25MD (25GB、1~6 倍速)
		LM-BR25MDH5 (25GB、1~6 倍速)
		LM-BR50LDH5 (50GB、1~4 倍速)
		LM-BR50LDW (50GB、1~4 倍速)
		LM-BR50MDH (50GB、1~6 倍速)
BD-RE	パナソニック	LM-BE25DH (25GB、1~2倍速)
		LM-BE25DH5A(25GB、1~2倍速)
		LM-BE50DH (50GB、1~2倍速)
		LM-BE50DHA(50GB、1~2倍速)

*3 カートリッジから取り出して、ご使用ください。

富士通コワーコ製品に相当品があるかは、富士通コワーコ株式会社にお問合せください。

(5) 留意事項

- 1) 本装置は CD/DVD/BD 読み込み用途、大容量リムーバブルディスク用途向けの製品です。本装置は磁気テープ装置に比べてエラーレートが高いため、バックアップ用途には適していません。バックアップ用途には PRIMERGY に接続可能な磁気テープ装置を推奨します。次の使用方法は未サポートです。
 - (ア) バックアップソフトウェアからの使用
 - (イ) CD-R/CD/RW/DVD-R/DVD-R DL/DVD-RW/DVD+R/DVD+R DL/DVD+RW への書き込み機能
- 2) 本装置はサーバ本体の DVD ドライブユニットベイに取り付けます。電源ケーブル、インターフェースケーブルはサーバ本体に搭載されているものをそのまま使用します。取り付け、ケーブル接続方法についてはサーバ本体の取扱説明書を参照してください。
- 3) 本装置は活性挿抜不可のため取外しの際は、サーバ運用中に媒体をイジェクトしてからサーバの電源を切り、装置を取り出してください。取り付けは逆の手順で行ってください。